報道用資料

新国立劇場

【新制作】
新国立劇場 2015/2016 シーズン
ジュール・マスネ

ウェルテル

【全 4 幕＜フランス語上演／字幕付＞】

指揮：エマニュエル・プラッソン／演出：ニコラ・ジョエル

2016 年 4 月 3 日(日)14：00／6 日(水)14：00／9 日(土)14：00／
13 日(水)18：30／16 日(土)14:00

**ウェルテルが愛したシャルロットには、
アルベールという婚約者がいた・・・**

原作は文豪ゲーテの名作『若きウェルテルの悩み』。
当時は社会現象にもなったこの大ベストセラーは、
ゲーテ自身の道ならぬ恋と、
人妻への失恋がもとでピストル自殺した友人の事件が基になっています。

**多感な詩人ウェルテルと貞淑なシャルロットの道ならぬ恋。
マスネのロマンティシズム溢れるオペラです。**

肉感的で情緒溢れるマスネの旋律は、
許されぬ恋への背徳感と陶酔、
そして人間のエゴイズムを見事に表現しています。

彷徨える恋心と激情ほとばしる愛の歌をご堪能ください。

演出はフランス・オペラ界の重鎮で前・パリ・オペラ座総監督ニコラ・ジョエル。
甘い美声と端正な容姿で人気急上昇中のディミトリー・コルチャック。
シャルロットは近年世界の歌劇場で素晴らしい出演歴を誇るエレーナ・マクシモワ。
指揮者にフランスの俊英エマニュエル・プラッソンを迎えます。

＜最終ページに、本公演の装置デザイン画を掲載しております。宣材としてお使いいただけます。どうぞご検討下さい。＞

【好評発売中】 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞
新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 桑原 貴
Tel：03-5352-5733／Fax：03-5352-5709

報道用資料

【新制作】
新国立劇場 2015/2016 シーズン
ジュール・マスネ

ウェルテル

【全 4 幕＜フランス語上演／字幕付＞】

ドイツ語版初演:	1892 年 2 月 16 日	ウィーン、宮廷歌劇場
フランス語版初演:	1893 年 1 月 16 日	パリ、テアトル・リリック
作曲:	ジュール・マスネ	Jules Massenet (1842-1912)
原作:	ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ	Johann Wolfgang von Goethe
	『若きウェルテルの悩み』	Die Leiden des jungen Werthers
フランス語翻訳台本:	エドゥアール・ブロー、ポール・ミリエ、ジョルジュ・アルトマン（共同制作）	

多感な詩人ウェルテルと貞淑なシャルロットの道ならぬ恋。
マスネのロマンティシズム溢れる『ウェルテル』が、新制作で新国立劇場に登場。

マスネのロマンティシズム溢れる珠玉のオペラ『ウェルテル』が、フランスのベテラン演出家ニコラ・ジョエルの手による新制作で登場いたします。新国立劇場では 2002 年以来、14 年ぶりの公演となります。

■作品解説
オペラ『ウェルテル』の原作は、文豪として知られるゲーテが 25 歳で書いた『若きウェルテルの悩み』です。詩人ウェルテルは婚約者のある身のシャルロットに恋をします。しかし、その思いを遂げられずに悩み、彷徨い、遂にはピストル自殺をするまでを描いています。当時ヨーロッパで大ベストセラーとなり、ウェルテルと同じように多くの失恋した若者が自死を選ぶことになったほど、大きな影響力をもった作品です。

文豪ゲーテは『若きウェルテルの悩み』を書き上げました。これは「自身が体験した道ならぬ恋」と「人妻への失恋がもとでピストル自殺した友人」、この2つのノン・フィクションを題材として、さらに当時大流行していた「オシアンの歌」を取り入れることで完成させた小説です。マスネは、これを原作として「感情と時間のドラマを深く感じさせるオペラ」を作り上げました。オペラでは 2 人の出会いをカットして聴衆の想像に託しています。シャルロットの妹ソフィーは年頃の一人の女性として登場させました。そして、感涙のクライマックスはウェルテルの死の場面にシャルロットが駆け込んできます。また、物語を通して通奏低音のように歌われる、清く聖なるクリスマスの合唱曲は、男女のドラマが醸し出す熱く激しい波を一層際立たせているのです。

急遽タイトルロールに迎えたのは、甘い美声と端正な容姿で近年世界的に人気急上昇中の若手テノール、ディミトリー・コルチャック。日本でのオペラ初出演となります。相手役シャルロットを歌うエレーナ・マクシモワは、ロシア生まれのメッゾソプラノで、近年ウィーン、ミュンヘン、ニューヨークなど著名な劇場の出演歴を誇ります。また、新国立劇場でもおなじみのアドリアン・エレートがアルベール役、さらに日本を代表するソプラノ砂川涼子がソフィー役で出演する贅沢なキャストです。指揮にはフランスの俊英エマニュエル・プラッソンが、新国立劇場オペラ公演に初登場いたします。

新制作『ウェルテル』の演出を担うのは前・パリ・オペラ座総監督ニコラ・ジョエル。マスネ作品の多くを演出し、『ウェルテル』も何度も演出しているフランス・オペラ界の重鎮です。美術デザイナー：エマニュエル・ファーヴル、衣裳デザイナー：カティア・デュフロの 2 人による 20 年来のチームワークで成し遂げられる衣裳と舞台美術のハーモニーも見所の一つです。本公演ではクラシックで重厚な舞台美術です。背景に物語の時の流れや季節が進んでいくことを感じられる自然の景色を取り入れています。美術と衣裳からも登場人物の感情や潜在意識を読み取っていただける作品となることでしょう。

報道用資料

■あらすじ、聴き所

悲劇を予感させる美しい前奏曲の後、幕が開くとそこは緑萌ゆる田舎町。自然豊かな庭で、大法官がクリスマスのための合唱曲を子供たちに教えている。7 月に似つかわしくない「ノエル（クリスマス）！」の無垢な歌声が、この後クリスマスに起こる悲劇が既に忍び寄っていることを予感させる。ウェルテルが登場して「おお自然よ、恵みに満ちて」と歌い上げる。ウェルテルはシャルロットをエスコートして舞踏会に出掛ける。入れ替わりに帰郷したシャルロットの婚約者アルベールは、迎え入れるシャルロットの妹ソフィーとの会話から「シャルロットは私を愛している」と喜び歌う。ウェルテルは舞踏会から戻る道すがら、シャルロットへの感情が高まり彼女に愛を伝えるが、彼女はアルベールの帰郷を報せる声を聞きながら、ウェルテルに「亡き母が望んだ婚約者はアルベールである事」を伝えて、家の中に去ってしまう。

2 幕になり、季節は 9 月へ。シャルロットはアルベールの妻となり、その様子をうかがうウェルテルは「他の男が彼女の夫とは」と悲痛な思いを歌う。アルベールがウェルテルの思いを牽制するように語りかけていると、ソフィーが明るい旋律と共に現れ「みんな幸せでいっぱいだわ！」と喜びに溢れて歌うが、ウェルテルは暗い顔だ。アルベールはソフィーとの仲を取り持とうとするが、ウェルテルはシャルロットへの思いを諦めきれずにいる。ウェルテルが一人取り残されるとシャルロットが現れ、動揺したウェルテルは再度愛を告げる。シャルロットは「遠くへ行って！」とウェルテルを拒んだものの、永遠の別れを望んでいるわけではない、クリスマスに再び会いましょう、と告げる。ウェルテルは狂ったように走り去ってしまう。

時は過ぎ、3 幕はクリスマス・イヴの夕方。アルベールの家で独り居るシャルロットは、ウェルテルからの手紙を読み返すうち感情が高ぶり、涙しながら、ウェルテルが去って以来心の中にいることを独り語る「手紙の歌」を歌う。青ざめ、やつれた様子のウェルテルが戸口へ現れる。「君と再会するよりいっそ死んでしまおうと思っていた。でも君が決めた再会の日に、僕は来てしまったんだ」と迫るウェルテルに、自制心を働かせたシャルロットは「なにもかも昔のままでしょう」とウェルテルの訳した『オシアンの歌』のノートを差し出す。ウェルテルは「春風よ、なぜ私を目覚めさせるのか」と歌にのせて愛を訴える。シャルロットはその抱擁に一時身を任せるものの、「さようなら、これで最後よ！」と振り切って去り、ウェルテルも絶望して立ち去る。帰宅したアルベールは妻の様子から異変を感じ取り、ウェルテルからの「旅に出たいので護身用にピストルを貸してくれ」という手紙に応えて、召使いにウェルテルへピストルを送り届けるよう指示する。

4 幕はウェルテルの書斎。駆け込んできたシャルロットは、瀕死のウェルテルを見つけ、ひざまずいて手を取り「死なないで！」と叫ぶ。助けを呼ぶのを制したウェルテルに、シャルロットは取り憑かれたように愛を吐露し、「悲しみも苦しみも全て忘れましょう」と口づけを交わす。ウェルテルはシャルロットに、自分の亡骸を葬る方法について願いを告げ「そして優しい涙を死んだ男の影に流してくれるのなら、哀れな男の魂は救われるだろう」と言って息を引き取る。シャルロットの悲痛な叫びに重ねて、窓の外からは子供達とソフィーのクリスマスを讃える歌声が喜びに溢れて響き、幕となる。

報道用資料

【新制作】
新国立劇場 2015/2016 シーズン
ジュール・マスネ

ウェルテル

【全 4 幕＜フランス語上演／字幕付＞】

【公演日程】2016 年 4 月 3 日(日)14:00／6 日(水)14:00／9 日(土)14:00／13 日(水)18:30／16 日(土)14:00
【チケット料金】S:27,000 円／A:21,600 円／B:15,120 円／C:8,640 円

指 揮:	エマニュエル・プラッソン
Conductor :	Emmanuel PLASSON
演 出:	ニコラ・ジョエル
Production :	Nicolas JOEL
美 術:	エマニュエル・ファーヴル
Set Design :	Emmanuelle FAVRE
衣 裳:	カティア・デュフロ
Costume Design :	Katia DUFLOT
照 明:	ヴィニチオ・ケリ
Lighting Design :	Vinicio CHELI
舞台監督	大仁田 雅彦
Stage Manager :	ONITA Masahiko
ウェルテル:	ディミトリー・コルチャック
Werther:	Dmitry KORCHAK
シャルロット:	エレーナ・マクシモワ
Charlotte:	Elena MAXIMOVA
アルベール:	アドリアン・エレート
Albert:	Adrian ERÖD
ソフィー:	砂川 涼子
Sophie:	SUNAKAWA Ryoko
大法官:	久保田 真澄
Le Bailli:	KUBOTA Masumi
シュミット:	村上 公太
Schmidt:	MURAKAMI Kota
ジョアン:	森口 賢二
Johann:	MORIGUCHI Kenji
合唱指揮:	三澤 洋史
Chorus Master:	MISAWA Hirofumi
合 唱:	新国立劇場合唱団
Chorus:	New National Theatre Chorus
児童合唱:	TOKYO FM 少年合唱団
Children Chorus:	TOKYO FM Boy's Chorus
管弦楽:	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra:	Tokyo Philharmonic Orchestra

報道用資料

【新制作】
新国立劇場 2015/2016 シーズン
ジュール・マスネ

ウェルテル

【全 4 幕＜フランス語上演／字幕付＞】

＜主要キャスト・スタッフプロフィール＞

【指揮】エマニュエル・プラッソン　Emmanuel PLASSON

フランス生まれ。米メイン州のピエール・モントゥー音楽学校、さらにイェール大学で指揮法を学ぶ。1994年ロンドンのドナテッラ・フリック指揮者コンクールで優勝。その後BBCフィルハーモニック、BBCウェールズ交響楽団、ロイヤル・スコティッシュ管弦楽団、アルスター管弦楽団、ノーザン・シンフォニア、英国ロイヤル・バレエなどで指揮をしている。
オペラでは、スウェーデン王立歌劇場、デンマーク王立歌劇場、及びオペラ・オーストラリアでの『ウェルテル』をはじめ、ハンブルク州立歌劇場『ホフマン物語』『連隊の娘』、ボストン・リリック・オペラ『ルチア』、ニューヨーク・シティ・オペラ『ラ・ペリコール』『エトワール』『真珠採り』、オペラ・オーストラリア『マノン』『椿姫』『ファウスト』、トゥールーズ・キャピトル歌劇場『サンドリオン』『ファウスト』、マッシモ・ベッリーニ劇場『ルチア』などを指揮している。新国立劇場では指揮者として2006年、2012年バレエ『シンデレラ』で登場している。オペラ公演においては、新国立劇場初登場となる。
本件公演では、父親でもあるミシェル・プラッソンのアシスタントとしてリハーサルに参加していたが、この不測の事態において急遽指揮者を務めることになった。

【演出】ニコラ・ジョエル　Nicolas JOEL

フランスのパリ生まれ。1973年から78年までストラスブールのライン・オペラで演出アシスタントを務めた後、79年にライン・オペラとリヨン歌劇場で「ニーベルングの指環」で演出家としてデビューした。90年から2009年までトゥールーズ・キャピトル劇場の芸術監督を務めた。ウィーン国立歌劇場『アイーダ』、サンフランシスコ・オペラ『サムソンとデリラ』、コペンハーゲン王立歌劇場『ローエングリン』、アムステルダム歌劇場『エウゲニ・オネーギン』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、チューリッヒ歌劇場『リゴレット』『椿姫』『運命の力』、ミラノ・スカラ座『つばめ』『マノン』、英国ロイヤルオペラ『ロメオとジュリエット』、ブエノスアイレスのコロン劇場『カルメン』、メトロポリタン歌劇場『アンドレア・シェニエ』など多くの話題作を手がけた。オランジュ音楽祭では『さまよえるオランダ人』『ナブッコ』『アイーダ』『オテロ』『カルメン』『ロメオとジュリエット』などを続けて演出、成功を収めた。また芸術監督を務めたトゥールーズ・キャピトル劇場では『イル・トロヴァトーレ』『ファルスタッフ』『エレクトラ』『エウゲニ・オネーギン』『リゴレット』『ロメオとジュリエット』などを演出。パリ・オペラ座をはじめ各地で『ロメオとジュリエット』『トゥーランドット』『タイス』『ラ・ジョコンダ』『シチリア島の夕べの祈り』『ディドとエネアス』『ファウスト』などの作品が上演されている。2009/2010シーズンから2013/2014シーズンまでパリ・オペラ座総監督。
新国立劇場初登場。

【ウェルテル】ディミトリー・コルチャック　Dmitry KORCHAK

ロシア生まれ。これまでにミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、サン・カルロ歌劇場、モネ劇場、パリ・オペラ座、チューリヒ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。これまでに、「ウェルテル」タイトルロール、「セビリアの理髪師」アルマヴィーヴァ伯爵、「愛の妙薬」ネモリーノ、「コジ・ファン・トゥッテ」フェルランド、「チェネレントラ」ドン・ラミーロ、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオ、「エウゲニ・オネーギン」レンスキー、「オテロ」(ロッシーニ作曲)ロデリーゴ、「清教徒」アルトゥーロ、「真珠採り」ナディールなどを歌っている。今後の予定としては、メトロポリタン歌劇場「セビリアの理髪師」アルマヴィーヴァ伯爵、バルセロナ・リセウ大劇場、バイエルン州立歌劇場において「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオなどがある。
新国立劇場初登場。

報道用資料

【シャルロット】エレーナ・マクシモワ　　　　　　　　　　　　　　Elena MAXIMOVA

モスクワのチャイコフスキー音楽院で学ぶ。レパートリーは『セビリアの理髪師』ロジーナ、『スペードの女王』ポリーナ、『こうもり』オルロフスキー公爵、『蝶々夫人』スズキ、『エウゲニ・オネーギン』オルガ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『ウェルテル』シャルロットなどがある。2012年にはウィーン国立歌劇場にカルメンでデビューして、大きな成功を収めた。ヨーロッパの多くの歌劇場で歌っており、リヨン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ザンクト・ガレン歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ヴァレンシア歌劇場、ネザーランド・オペラ、パレルモのマッシモ劇場、ミラノ・スカラ座などに登場している。最近の出演は、英国ロイヤルオペラ『カルメン』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『ドン・カルロ』エボリ公女、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ホヴァンシチナ』マルファ、『リゴレット』マッダレーナ、メトロポリタン歌劇場『ホフマン物語』ジュリエッタなどがある。今後、新国立劇場では2016／2017シーズン『カルメン』タイトルロールでの出演が予定されている。新国立劇場初登場。

【アルベール】アドリアン・エレート　　　　　　　　　　　　　　Adrian ERÖD

オーストリア・ウィーン生まれ。2001年グノー『ロメオとジュリエット』マキューシオでウィーン国立歌劇場にデビュー。03/04～09/10シーズンにおいてウィーン国立歌劇場の専属歌手として、『セビリアの理髪師』フィガロ、『マノン・レスコー』レスコー、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ウェルテル』アルベール、『カプリッチョ』オリヴィエなどで出演を重ねる。また、フェニーチェ歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、パリ・オペラ座、ヒューストン・グランド・オペラ、シカゴ・リリック・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。09年に『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサーでバイロイト音楽祭に初登場。その後、同役でチューリッヒ歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、ネザーランド・オペラなどに出演している。また『ラインの黄金』ローゲ役は国際的に高く注目されている。さらにブレゲンツ音楽祭でのアンドレ・チャイコフスキー『ヴェニスの商人』世界初演のシャイロック役の演技も高く評価された。
新国立劇場には11年『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、11年『こうもり』アイゼンシュタイン、14年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、15年『こうもり』アイゼンシュタインに出演している。

【ソフィー】砂川　涼子　　　　　　　　　　　　　　SUNAKAWA Ryoko

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第34回日伊オペラコンコルソ優勝。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。イタリアに留学し研鑽を積む。2005年第16回五島記念文化賞、オペラ新人賞受賞。これまでに藤原歌劇団『ラ・ボエーム』ミミ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『椿姫』ヴィオレッタなどに出演。最近ではびわ湖ホール『死の都』マリー／マリエッタでの成功が記憶に新しい。新国立劇場では『トゥーランドット』リュー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニア、『魔笛』パミーナ、『夜叉ヶ池』百合などに出演している。2016／2017シーズンには『カルメン』ミカエラでの出演が予定されている。
藤原歌劇団団員。

【大法官】久保田　真澄　　　　　　　　　　　　　　KUBOTA Masumi

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。1993 年第 62 回日本音楽コンクール第 3 位。96 年リッカルド・ザンドナーイ国際コンクール及び第 2 回フェルッチョ・タリアヴィーニ国際コンクールに入選。ミラノで『蝶々夫人』『椿姫』『アイーダ』『ラ・ボエーム』などに出演。藤原歌劇団では『愛の妙薬』『椿姫』『マクベス』などで活躍。新国立劇場には、開場記念公演『アイーダ』エジプト国王で出演以来、『リゴレット』スパラフチーレ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、『セビリアの理髪師』バルトロ、『ルチア』ライモンド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『オテロ』ロドヴィーコ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、『運命の力』カラトラーヴァ侯爵などに出演している。藤原歌劇団団員。

♪♪

報道用資料

★本プロダクションは新制作です。装置のデザイン画(1 幕／2 幕)を宣材としてご提供できます。

【1 幕】

【2 幕】